

## 令和4年度 県外日帰り現地研修会 ～福井県嶺南地方の文化財を訪ねて～

研修委員長(副会長) 伊縫 正克

令和4年6月28日、36名の参加者を得て福井県嶺南地方の文化財を訪ねた。歴史的には、畿内(現在の奈良県、京都府、大阪府)から北陸道の入り口として機能し、若狭湾の港は古くから畿内の国際港として機能していた。現在、この地域には多くの原子力発電所が立ち並び、「原発銀座」として有名である。今回は「人道の港 敦賀ムゼウム」「氣比神宮」「明通寺」「鯖街道 熊川宿」を訪れ、歴史的な文化財に触れることが出来た。

### 人道の港 敦賀ムゼウム(資料館)について

最初に、敦賀港だからこそ伝えられる「命」の大切さと「平和」の尊さを発信していることに強い感銘を受けた。ムゼウムには、大正時代にシベリアで救出され敦賀に来たポーランド孤児、第二次世界大戦中には、八百津町にも関係深い外交官杉原千畝の発給した「命のビザ」を携え敦賀港に上陸したユダヤ難民と敦賀の人々との交流を伝える資料が展示されていた。この地は豊かな歴史の発信と同時に、助け合いの心などを若い世代に伝える大切な場所になっていた。

### 氣比神宮について

「北陸道総鎮守」と称されて朝廷から重視されていた。「日本三大木造鳥居」の一つで美しい朱塗鳥居であり、以前は国宝であったが現在は国の重要文化財に指定されていた。この鳥居をくぐり境内に入ると菊の神紋があり、静かな雰囲気の中に格式の高さを感じた。境内には松尾芭蕉の像と句碑があり、「奥の細道」の風景地12県26ヵ所の一つで国の名勝に指定されていた。

### 明通寺について

山門に向かって急な階段を上っていき山門をくぐり抜けると、建造物としては福井県内唯一の国宝、檜皮葺の入母屋造り本堂と檜皮葺の三重塔が目に見え込んできた。うっそうと繁った杉木立に囲まれて、ひっそりと木漏れ日を浴びながら、しかも威風堂々とした姿であった。ご住職からは建造物や仏像等の説明を丁寧に受け、間近で鑑賞できた。深山幽谷にたたずむ寺として歳月の重みをずっしりと感じとることが出来た。

### 鯖街道 熊川宿について

熊川宿は、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、往年の繁栄をしのぶ町並みが保存されていた。さらには海と都をつなぐ「御食国(みけつくに)若狭と鯖街道」として日本遺産に認定されていた。熊川宿の約1・1kmの両側には、商家や土蔵などの伝統的建造物が軒を連ね、街道沿いには「前川」という水量豊かな水路が流れ、石橋や家ごとの洗い場(かわと)が設置され、歴史的景観が当時の街道を想起させてくれた。

※ 今回の研修会では、コロナ禍のため参加人数を絞っての実施となり、参加希望者全員の参加とはならず大変ご迷惑をおかけしました。